特別支援学校における生活に生きる教科指導

尾上　利美（和歌山大学教育学部）・岩野　清美（和歌山大学教育学部）
栗本　佳代（和歌山県立紀北支援学校）

1. 研究課題について

紀北支援学校で行われるテーマ設定研修会に参加し、社会科および外国語（英語）科における「子どもにつけたい力」と「教科で大切にしたいこと」を明確にした授業づくりについて、検討を行った。

2. 取り組みについて

令和２年度テーマ設定研修会は、６月から月に１回開催された。岩野（社会科教育）は「中学部３年３グループ（中学部２段階）」、尾上（外国語教育）は「高等部　英語２グループ」、のテーマ設定研修会へそれぞれ参加し、各グループに所属の先生方と単元からの授業づくりについて検討した。

3.「中学部３年３グループ（中学部２段階）」「高等部　英語２グループ」研究のまとめ

(1) 中学部３年３グループ（中学部２段階）

社会科の授業を通して
般化をめざす取り組み

中学部３年３グループ
（中学部２段階）

1

《研究メンバー》

○ 中学部３年生　担任８名

○ スーパーバイザー
和歌山大学教育学部社会科准教授
岩野　清美先生

昨年度も本学年の研究
社会科　単元「公共のルールとマナー」で、教師の協議にも参加され、進め方等にも的確なアドバイスをいただいた。

2

《進め方》
① 生徒の実態、グループの実態把握
学習内容表の確認

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

③ 授業のビデオ撮影と視聴による授業改善のための協議

④ 単元の成果と課題、まとめ

3

① 生徒の実態、グループの実態把握
学習内容表の確認

3グループ（男子3名　女子3名）

生徒(性別)	障害
A(男)	知的障害、自閉症スペクトラム
B(男)	知的障害、ADHD、自閉症スペクトラム
C(男)	知的障害、自閉症スペクトラム、強迫性障害
D(女)	知的障害、自閉症スペクトラム、LD
E(女)	知的障害、自閉症スペクトラム
F(女)	知的障害

4

① 生徒の実態、グループの実態把握 学習内容表の確認

◎共通する課題や困難さ
- ・自分が嫌だと思ったことはやりたがらない。
- ・かまってもらいたいという気持ちがつよい。
- ・じっくり人の話をきいたり、場を設定して話をするのが苦手。
- ・場の雰囲気を悪くする言動がある。
- ・意思表示が弱い。

- 興味関心があるものならば、やる。
- かまう＝関わり方によっては意欲的になるのでは？
- 1対1ではなく、集団の中で話をしていく雰囲気をつくる。
- 意思表示できるハードルをさげる。

5

- 興味関心があるものならば、やる。
- かまう＝関わり方によっては意欲的になるのでは？
- 1対1ではなく、集団の中で話をしていく雰囲気をつくる。
- 意思表示できるハードルをさげる。

見通し（見える化）

- 短期記憶　強い
- 視覚優位
- わからないときは見本をまねる。
- 興味あることはなんでも発言してもよい。

協力、共感

コミュニケーション

- 教師からの提案、生徒の選択
- 机上学習から活動型へ
- ○×ではない、すべての活動が◎になるように。

6

学習内容表にもとづき授業づくりを行う。

社会科　中学部2段階　No.

中学部2段階	
政治の目標	日常生活に関わる社会的事象が分かり、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
知識・技能	ア　自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び各国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力判断力表現力	イ　社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。
学びに向かう人間性	ウ　社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。

領域	ア 社会参加ときまり		イ 公共施設と制度		ウ 地域の安全		エ 産業と生活		オ 住む国の地理や歴史		カ 内容の様子	
年間計画	単元	内容	単元	内容	単元	内容	単元	内容	単元	内容	単元	内容
3グループ 2年生	集団生活の中での自分の役割と責任	校舎の状況を紹介し、自己決定する	社会生活に関係する制度	スポーツセンター図書館の利用			生活を支える事業	水・電気・ガス(供給) 流通物品輸	自分の住む都道府県の様子	国における位置	日本と他の国との違い	生活や気候の違い
		集団生活の中での自分の役割		行政サービス						地形		自然や気候の違い
				選挙						主な産業から		歴史的背景の違い
			公共施設や公共物の役割と必要性	生活の中での利用						交通網		
										都市の位置		
										特色ある生活の様子		
3年生	家庭や学校、地域社会での	自分が住む地域のルールや規則、法			防災機関と地域の協力(例)	地域の実態と防災	地域の産業	特色あるまちづくり 観光	先人の働きや出来事(例)	国や県の発展に貢献した先人の例等 特徴的な出来事	世界の出来事	文化・スポーツ 政治経済
									文化遺産	国宝・重要文化財		

備考（使用教科書、注意事項、引継事項等）
- ・2年生の教科書は世界地図［いちばんわかりやすい小学生のための世界地図帳］［ドラえもんもずかんさせかいへ］を柱（ベースに）に役立つ社会を
- ・3年生の教科書はしごと［しごとは］又は世界地図［いちばんわかりやすい小学生のための世界地図帳］あるいは［　　］を柱に役立つ社会を
- ※教科書の見直しが必要
- ・1単位の授業ということを踏まえて、領域を横断的に捉え、時間配分を行うこと。
- ・2年生では、日本と他の国との違いについて比較しながら学ぶ。
- ・3年生では地域に関連した表現を扱う。

《単元》「世界の出来事」
《単元名》「オリンピック、パラリンピック」

7

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

【単元目標】（知識・技能）
- **オリンピックやパラリンピックの歴史**や**現在の社会的情勢**について知る。

・過去のオリンピックをひろいあげる。
・夏休みの宿題

コロナ禍の中で世界からどのように開催するのか日本が注目されている。

前回のダイジェスト版

Q&A

第1時～4時　※学習内容表参照

8

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

【単元目標】（思考力、判断力、表現力）
- オリンピックやパラリンピックについて、自分が考えたことや思ったことを**具体的に表現する力を養う。**

・まとめたり、発言すること

・世界の国と国旗
・オリンピックの開催国

調べ学習

第3時から8時　※学習内容表参照

9

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

【単元目標】（学びに向かう力・人間性等）
- オリンピックの調べ学習を通して、学んだことを**日常生活に生かそうとする態度を養う。**

変更しました

・オリンピックの調べ学習を通して、友だちの発信した情報に共感することができる。

・般化をめざすために、興味関心を拡大したり、主体的な活動をすること

壁新聞完成

第5時から9時　※学習内容表参照

10

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

「めざすべき般化の姿」

高等部卒業後、今よりも豊かに自信をもって生活することができる。

中学部 → 高等部 → 社会へ

11

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

単元をどうすすめるかにおいて
①「 導入 」→ ②「メイン(本題) 」→ ③「 まとめ 」
を柱として、付箋紙にアイデアを書きだす「KJ法」を行った。 そのあと 具体的に絞り込みを行った。

導入
- ・自分の興味あることからを発信するのはどうか。
- ・動画で興味を引くのはどうか
- ・オリンピックは、どんな目的なの？
- ・クイズ形式で興味を引くのはどうか？
- ・年表や開催世界地図を調べていくのはどうか？

導入① ②
- ・世界について学習すること。
- ・オリンピック開催前の1コマの授業であることから、興味関心を持ってもらうために前回のリオオリンピックのダイジェスト動画を視聴。
- ・2回目の授業では、東京オリンピックが閉幕していることから、夏休みの宿題として、オリンピックのニュース等を見ることとした。
- ・年表内の世界や日本の出来事の併記は歴史的事柄の知識がないためにやめる。

12

② 単元計画表作成にあたって、各先生からのアイデアの提案と具体案の協議

本題	本題
・一斉授業よりも話し合い活動 ・一人で調べるか、ペアの方がいいのか。 ・和歌山でオリンピックに携わった人物にスポットをあててもよい。 ・サイトを使っての調べ活動 ・世界地図から開催都市や国を調べるのはいい。	・基本的には自分の興味あることをパソコンやオリンピック関連図書を活用しての調べ学習を行う。 (※)関連サイトや図書は別紙参照 ・開催国などを世界地図にシールを貼っていく。(教師からの提案)
まとめ(般化)	**まとめ(般化)**
・学習したことを形に残すことは大切である。 ・自分に置き換えて考える。 ・オリンピックの学習から高等部卒業後につなげるにはどういった仕込みがいるのか。 ・自信を持って生活するとは、情意面と技能面がある。	・壁新聞を作成する。 ・生徒への評価(成功体験)

13

「単元名」

「単元目標」

「目指すべき般化の姿」

「単元の評価の規準」

「単元計画と活動内容」
※単元計画 9時間
※活動内容
導入2時間
本題6時間
まとめ1時間

14

④ 授業の動画撮影と教師による視聴による授業改善の協議

・1コマの授業時間(40分)

・毎時間ビデオ撮影を行ったことで、生徒の授業に向かう態度や言動に変化が見えた。

何が生徒にやる気をおこさせたのか？

生徒の変化等

・導入の工夫で、最初は興味がないと言っていた生徒も、ダイジェスト版(視覚的支援)で興味をもつことができた。
・地名や国旗で興味を抱いた生徒がいた。
・教師からの提示は、選択肢を示す。
・生徒自身から「首都」を調べたいという発信があった。
・「来週から調べ学習をします」という教師からの言葉に、ある生徒から「完成しなかったら？」を受けて、別の生徒は「完成するよ」という必ず時間内にやり遂げるという自信の発言があった。
・生徒同士が声をかけあいながら作業をすすめていた。相手の反応から自分のペースを調節をしていた。

15

調べ学習で使用した「サイト」や「図書」

【サイト】
☆大会参加予定国・地域情報/児童・生徒向けコンテンツ/東京都オリンピック・パラリンピック教育(metro.Tokyo.jp)

【図書】
☆オリンピック競技おもしろ大全
☆オリンピックの歴史
☆オリンピック大事典
☆オリンピックものしりチャンピオン
☆オリンピックまるわかり事典
☆オリンピック大百科1　オリンピックってなに？

16

⑤ 単元の成果と課題、まとめ

『教師が生徒にどのように評価を伝えるか』

・自分たちが取り組んだことのふりかえり
　○興味の幅のひろがり
　○自分で仕上げた自信
　○世界について調べた記憶

→ 苦手なことを調べることは、将来の役にたつ。
→ 大学の先生からも、みんなが意欲的にとりくんでいたことや、協力していたことに対する評価

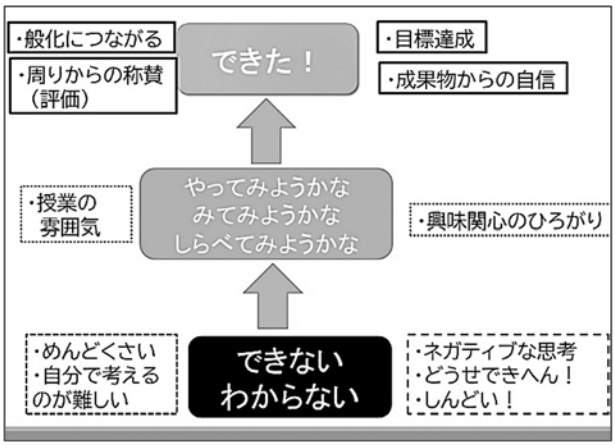
17

⑤ 単元の成果と課題、まとめ

『般化につながっていると思われること』

・できあがっていく様子が生徒にとってわかりやすく、自分たちで仕上げたという成果物が「自信」になっていると思われる。
・今年は「オリンピック」があると理解(わかりやすさ)して、興味関心をひきやすかった。
・「いやだな」「めんどくさいな」と思っても、とにかくやってみたことの大切さ
・答え(○、×)などの正解があるものでないので、いきいき活動できていた。「できた」という言葉は、まわりの共感につながる。
・生徒同士のかかわりで、声をかけあいながら、相手の反応をきいて、自分のペースを調整できていた。
・時間内にやりとげようとする気持ちと行動

18



19

『岩野先生からの講評』

【単元づくりに関して】
特別支援学校の生徒にとって、抽象度の高いことを教師が実態にあわせて指導していた。はじめは、生徒はやる気が低かったが、「新しいことを知る」ことに興味をもち、自分が学んだことを友達に伝える様子が見られた。教師は生徒が楽しみながら学びを深められるように指導されていたことに感銘を受けた。

20

(2) 高等部　英語２グループ

「生活に生きる教科指導」
～単元作りから考える～

英語２G　高等部2段階

1

英語２G　生徒の実態

- 授業に積極的に取り組める集団である。
- 恥ずかしがらずに発表することができ、ペア学習にも活発に取り組んでいる。
- 簡単な**英語**の読みが分かっている生徒が多いが、**英語**の読み書きが難しく、読み方をカタカナで書いている生徒もいる。

2

目指すべき般化の姿

簡単な語句を使ってコミュニケーションを**外国語（英語）**で行おうとする姿、またそのうれしさを感じられる姿

3

学習内容の理解 → 運用の練習 ⟲ 運用 ⟲ 定着

外国語科（英語）の５つの領域
聞く・話す（やりとり）・話す（発表）・読む・書く

4

単元作り（改訂前）

・「Where is your treasure?」の単元を取り上げた内容
参照：Junior Sunshineの5

・道案内の内容（leftやright等）と場所を表す前置詞（ on,in,under,by ）の２つの内容を同時に取り上げていた

➡ 実態に合わせた学習内容の選定

5

単元作り（改訂版）

inのみ

on,in,under,byの
４種類を扱う

➡ 実態に合わせた学習内容の選定

6

単元作り（完成版）

活動内容（全４時）

（1）　「ポインティングゲーム」
　・Where is ○○？
　・新出単語の意味や発音練習

（2）　「前置詞ゲーム」
　自分の机の周辺を使って場所を表す前置詞を使う練習

（3）　「トレジャーゲーム」
　教師が生徒に出題する

（4）　「トレジャーゲーム」
　生徒同士が出題し合う

7

（1）ポインティングゲーム

◇授業の紹介
　・右図を見て「Where is the ○○？」と教師に聞かれたら指をさして回答する

◇生徒の様子
　・生徒二人組でペアとなり活動をおこなった。みんな活発に問答できていた。
　・使用する単語は既習した単語も多かったのですぐに覚えられたが、覚えるのに時間がかかる生徒もいた。

8

（2）　前置詞ゲーム

◇授業の紹介

・「on in under by song」の動画を視聴する。
　参照:https://www.youtube.com/watch?v=DHb4-CCif7U
・前置詞を使って答える練習を生徒同士で行う

◇生徒の様子

・「on in under by song」の動画を聞くことで意味を覚えることができた。意味を忘れても歌を口ずさむことで思い出せていた。
・具体物（箱と人形を一人１セットずつ使う）を自分で操作することで、前置詞の意味の理解が進んだ。

具体物（Rodyちゃん）

9

（3）　トレジャーゲーム

◇授業の紹介

・「Where is my treasure?」ゲームの説明
　（心の中で決めた宝物を当てるゲーム）
・**教師が生徒に出題する**
・生徒が２人組でペアになり答えを考えてボードに書いて発表する

◇生徒の様子

・考える→話し合う→ボードに書く→発表する、の４つの工程をスムーズに行え、積極的に参加できた。
・ボードに書く時にスペルが正しく書けない生徒がいた。
・前置詞の意味はほぼ理解できていた。

10

（4）　トレジャーゲーム

◇授業の紹介

・「Where is my treasure?」ゲームの説明
・**ペアで話し合って出題する（生徒が生徒に出題する）**
・生徒同士がペアになり答えを考えてボードに書いて発表する

◇生徒の様子

・出題する側も答える側も真剣に取り組めた。
・活動には積極的だった。
・前置詞のスペルを正しく書けなかった時に、既習のプリントを見たり友達に確認したりしていた。

11

成果と今後の課題

・成果

①生徒の実態に合わせて指導と活動の工夫を行ったことで、生徒につけたい力を整理することができ、テーマへの迫り方がより深まった。

②より豊かな形態の言語活動を行うことで、生徒間の活動の機会が増え、定着をはかることができた。

③ゲーム性を持たせた活動を多く取り入れることでより楽しんで学習に取り組むことができた。

・課題

①学習の定着はしたが、生活に活かせる場面は少なかった。

②週１時間、１単位の授業であるため、繰り返し学習する機会が少なかった。

③単元で扱う文法（定型文）を授業の最初に提示できてなかった。（第一時と第三時）

12

ご視聴ありがとうございました

13